

TTC スペクトル管理 SWG 寄書

平成 16 年 3 月 26 日

ソフトバンク BB(株)

### JJ100.01 第 3 版へ向けた提案事項

国内のプロードバンドサービスにおける、DSL ユーザー数が 1000 万を超え、且つ、加入者数が増加している現状、新たな新システムの導入に関しては、今以上に、既存ユーザーの利益を損なわないスペクトル管理が最重要事項であると考え、弊社は、スペクトル管理標準 JJ100.01 第 3 版へ向けて、以下の事項を検討項目として再提案する。

#### 保護判定基準値の見直しについて

1. 第 3 版では、保護判定基準値を、ISDN を与干渉源から除外した条件で計算し、新システムのスペクトル適合性確認を行なう事を提案する。

( ISDN は、保護判定基準値を算出する際の与干渉源からは除外するが、クラス A として保護する )

SMS-08-17 を参照のこと

2. 緩和値等の付加条件の追加

緩和値等の付加条件の追加は、各事業者間での議論をもとに緩和値の設定を行なうことを提案する。

#### 見直しの理由

- ・ 現在の保護判定基準値は、クラス A、A'のシステムが相互に干渉した場合の最悪ケースを想定し、算出を行なっている(第 2 版で、最悪ケースとなる場合の主な与干渉源は ISDN) が、ISDN が無い場合の、クラス A の伝送基準値と比較するとその差に大きな乖離がある。

- ・ 新システムのスペクトル適合性を判断するにあたって、現在の最大干渉源である ISDN 程度の干渉を許容するといった基準では、第 2 版で想定している最悪ケースを、増やしていく要因となり、既存システムのユーザに多大な影響を及ぼすこととなる。 ADSL が、ベストエフォートサービスとはいえ、サービスレベルが、明らかに低下する要因を増やすことは、未然に防ぐべきと考える。  
よって、上記、保護基準値の見直し及び緩和値の検討を提案する。

以上

---

連絡先：ソフトバンク BB(株)  
菊池 弘人  
e-mail:hikikuch@softbank.co.jp  
TEL: 03-5541-9820